

主体的・対話的で深い学びの授業実践 リフレクションシート（科目「原価計算」）

授業実践の直前と直後において、生徒を3名抽出し、課題に対する思考や様子を比較し分析することで、生徒の変容を記述する。また、授業改善や授業デザインの方策を提案する視点に立って、授業構想の振り返りを行う。そして、新学習指導要領における育成を目指す資質・能力の評価方法の課題を述べる。

抽出生徒の思考の変容		
生徒	課題提示直後の課題に対する思考や様子	授業実践終了時の課題に対する思考や様子
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準原価計算における原価差異の分析（計算）はできるが、原価管理について考察することは初めてなので不安である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難しい課題に対して、周りと協働しながら意欲的に学び、グループでの対話的な学習活動に楽しさを見いだしていた。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的、意欲的な学習活動ができるが、発想力に欠け、原価差異の要因や改善策が考察できるか自信がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解している知識、技術を生かすことはできたが、グループでの考察に関して積極的な発言をすることができなかった。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準原価計算における原価差異の分析方法（計算）の理解度が不安である。</li> <li>積極的に学ぶ姿勢は備わっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人では思い浮かばない発想を、他者との協働によって導き出すことに充実感を感じた。</li> </ul>

授業構想のリフレクション	
課題の提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の目標である標準原価と実際原価の差異分析の手法については、ある程度の理解度を把握することができた。しかし、差異の要因追究や改善策の考案という原価管理を主体的に考えさせることについては、前段階での深い知識の教授が必要であった。</li> </ul>
思考のための資料と想定される生徒の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>【資料1】 差異の分析（計算方法）を理解していない生徒は時間内に解答できなかった。</li> <li>【資料2】 原価管理ということで、差異の要因を追究する活動は初めてであったが、グループでの活動ということもあり、積極的に意見が交わされていた。</li> <li>【資料3】 製造現場における改善策の提案ということで、賃金や労働者、作業時間に関わる意見が多く、主体的に考えている様子が見られた。</li> </ul>
対話と思考（対話を通じた課題解決のプロセス）	<ul style="list-style-type: none"> <li>5人でチームとして課題に取り組ませたことと、役割分担を明確にしたことで、自分の役割を果たそうとする姿が見られた。</li> <li>難しい課題に対して、一人では考察が進まない内容もあったが、グループ活動ということで協働しながら考えることができた。</li> <li>内容的に50分という時間では難しかった。特にグループでの考察の時間や発表の時間配分が不十分であり、振り返りをする余裕がなかった。</li> <li>グループでの対話的な学習活動によって、深い学びにつなげることができた。</li> </ul>
学習の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話的な学習を通して、直接材料費差異の分析方法の理解を深めさせることができた。</li> <li>計算技術の習得のみならず、課題解決に向けてグループで主体的に考える姿勢や、深い学びにつなげることができた。</li> <li>主体的に差異の要因を探ろうとする姿勢が見られた。</li> <li>実践経験の少ないグループ活動において、協働することに慣れていない様子も見られた。</li> <li>実社会における実際原価データなどの資料を用いると更に深い学びにつながった。</li> </ul>

新学習指導要領における育成を目指す資質・能力を評価するための課題	
①知識及び技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準原価計算における差異を計算する技術においては、資料の作成から理解度をある程度把握することができた。しかし、深い学びという視点においては、何を規準に評価をするのか検討の余地がある。</li> </ul>
②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題解決に向けて、主体的に考察する様子と各自の意見を通じた資料の作成である程度の評価は可能であると感じた。さらに、発表活動の方法を工夫することで、客観的資料や視覚的創作物によつて的確な評価につながるという課題も得られた。</li> </ul>
③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>何をもちて主体的に取り組む態度を評価するかという点においては、資料作成などにおいて、できる限り個人の意見や思考を反映させるものをつくらせる必要があると感じた。</li> </ul>